



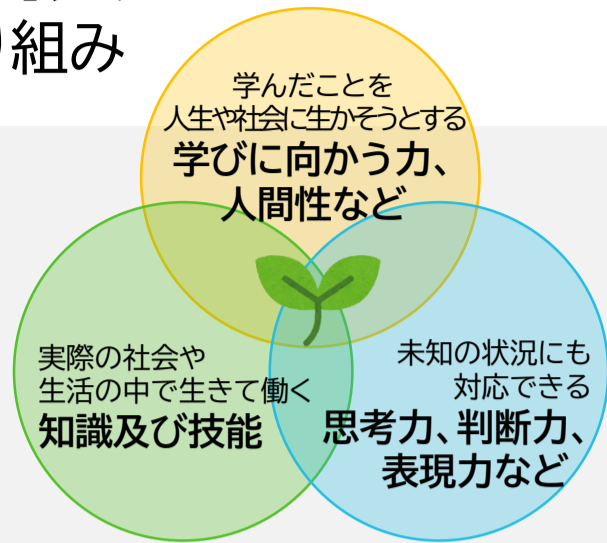
金沢市立高岡中学校

総合的な学習の時間におけるSDGsの取り組み

総合的な学習の時間とは

「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す」時間です。

学習内容の例(2021年度高岡中1年生)



2030年の金沢を作るのは誰？

- SDGs概論
- SDGs未来都市金沢

4月

5月

金沢にはどんな課題がある？

- サステナアートを通して学ぶ
- 地域課題への向き合い方とパートナーシップ

9月

11月

誰もが幸せに生きられる社会とは？

- 多様性の理解
- 公平とは
- スポーツと社会変革(東京2020)

何のために働き、どう生きたい？

- 仕事とお金とSDGs
- 金沢で働く人、地域の大人との対話

これまでの授業と生徒の声

想像してみよう 金沢のミライ ～IMAGINE KANAZAWA 2030～

講師:市企画調整課 笠間彩様

- 「いま働いているのは大人だから、大人が何かしているんでしょ？」と思っていたけど、子どもには無限の可能性があると知り、いま私たちが何かするべきだとわかった。
- 僕達には幸せになる権利、声を上げる権利があると知った。幸せになるために、SDGsを達成するために、地域活動に参加したい。

「かわまちづくり」を知ろう ～犀川水辺空間の利活用促進について～

講師:市企画調整課 出雲雅代様

- たくさんの人の思いと協力で、今の美しく楽しい犀川があるとわかった。犀川は家の前を流れる身近な川なので、自分も考えたい。
- 川にはみんなを幸せにする力がある。
- かわまちづくりは地域との連携が大切だとわかったので、普段から自然を感じたり、楽しい活用の仕方を考えたいと思った。

多文化共生社会を生きる ～想像力のアンテナを立てよう～

講師:在日ペルー人2世 サンチェスカオリ様

- 僕達はこれから多文化共生社会の中で生きていく。隣に座る友達も、完全な共通点は「人間」というだけ。だからこそ想像力が大切。
- いろいろな人と関わることで世界が広がり、自分も相手も楽しい人生を送ることができる。見た目で判断せず、「人」としてかかわっていきたくて思った。

食の多様性とハラールマップ ～多様性を受け止める環境とは～

講師:金沢星稜大学卒業生 麻田佳葉様

- 多様性とは、選択肢があること。制限されるのではなく、自分で選べる環境を作りたい。
- せっかくだら「食」を楽しみに日本や金沢に来てくれるのに、食に悩んで制限されるのは残念
- 麻田さんがハラール対応マップ「ハマップ」を作成したように、自分も何か行動したい。
- 宗教や考え方の違いを理解し尊重したい。

Jクラブが地域のためにできること ～社会を変える、スポーツの力～

講師:石川ツエーゲン 灰田さち様

- 僕達はこれから多文化共生社会の中で生きていく。隣に座る友達も、完全な共通点は「人間」というだけ。だからこそ想像力が大切。
- いろいろな人と関わることで世界が広がり、自分も相手も楽しい人生を送ることができる。見た目で判断せず、「人」としてかかわっていきたくて思った。

障害は社会の中にある ～違いを認め合い、生かす社会～

講師:教育系ライター 建石尚子様

- 障害ではなく得意不得意があるだけ。凸凹を生かせる社会なら、個性になる。
- 出来ないことがあれば出来るようになるまで取り組むのが「普通」だと思っていた。でも得意や苦手は人それぞれで、理由も、解決方法も異なる。合う方法を選ぶ環境が大切。
- 自分らしく生きることを大切にしたい。

誰もが自分らしく生きられる社会 ～LGBTqと、いろんな人と、一緒に～

講師:グッド・エイジング・エールズ 松中権様

- LGBTqという言葉も、差別のない社会に向けた取り組みが進んでいないことも、初めて知った。知ることができた今、自分達には風土を変え制度を作る可能性があるし、風土を必ず変えたい。自分から行動しようと思う。
- 一人一人が多様性を認め合い、世界中の人たちが幸せになる社会を金沢から作りたい！

- 金沢や北陸の差別の深刻さが初めてわかり、情けないと思った。偏見や差別などをせず、両親にも金沢の現状を伝えたい。
- 北陸では、LGBTqの方々への差別意識が全国で一番高いと知って驚いた。2030年には一番低く、できればゼロにしたい。
- 思ったよりLGBTqの比率が多い。金沢でパートナーシップ制度を導入するのが嬉しい。
- 「普通」は人それぞれ違うことを意識したい。
- 環境のせいで自分らしさを我慢したり隠している人が多いとわかった。様々な個性を持つ人が心地よく過ごせる社会にしたい。



ゲストティーチャーによる授業は全てオンラインで行われました。

1 竹が「課題」になっている？

金沢は日本で最も北にある筍の産地。古くから人々に親しまれてきた竹が、いま、地域課題になっています。それは、人の手が入らない放置竹林の拡大。繁殖力の強い竹は周囲の草木を枯らし、獣害や土砂崩れをも引き起こします。



2 どうやって解決する？

放置竹林が拡大している原因は、高齢化や市街地への移住、生活様式の変化。放置竹林だけでなく、伝統工芸の衰退など金沢が抱える他の課題にもつながっています。これらの原因を消すことは現実的でしょうか？また、そうした取り組みは持続可能でしょうか？

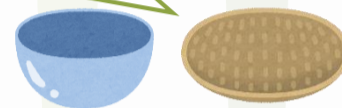
高齢化 都市移住

生活様式の変化

新素材への代替

輸入品の増加

生活用品を再び竹に?!



原因はなくせるの？「やらなきゃ」の取り組みって持続可能？

頑張って竹を切ろう?!



竹以外にも...



3 「急がば回れ」の課題解決

kanazaWAZA研究所と市森林再生課の協働事業「サステナアートプログラム」は竹が持つ良い特性に注目し、新たな利用価値を生み出すプログラム。アートの魅力が「やらなきゃ」を「やりたい」に変え、新たなパートナーシップもどんどん生まれています。最後は炭にして土に還すことで環境の持続可能性も実現。

過去よりも**未来**

新しい価値を作る

みんなで取り組む

環境の持続可能性

新しい活用法は？

「やりたい」と思える？



当事者だけでなくみんなが関心を持ち、参加するには？

金沢は、伝統や歴史を守るだけでなく革新し発展してきた!



4 行政×市民×学校 世代を超えたパートナーシップで目標を達成しよう

1年生198名がサステナアートに挑戦。4人グループで計48個の手鞠を作り、クラスごとに組み合わせて6つのオブジェに仕上げました。制作を通して地域課題への理解を深め、未来のまちづくりに必要な考え方を学びました。



よりよい社会を作るために

- 自分にも自然や社会のためになることができると実感でき嬉しかった。
- みんなが楽しめる方法で、ワクワクしながら問題を解決したら、よりよい社会になっていくと思う。
- 放置された竹がアートになって、楽しんだ後もゴミにしないのがすごい！みんなが「やりたい！」と思って取り組めるSDGsが一番だと思う。
- 知らないだけでいろいろな問題がある。ボランティアもしたいし、「やりたい！」と思える活動を考えたい。

無限の可能性

- アートを「見る」側から「作る」立場になって、のめりこんでしまった。アートの新しい楽しみ方、世界が広がった。
- 捨てられるものを活用する案を、今度は自分達で考えてみたい。
- 竹にはいろんな可能性があることを身近な人に広めたいし、自分も行動したい。

仲間と協力できる喜び

- 合唱などの行事が中止になる中、協力する体験ができて本当によかった。
- 協力して作業する中で友達それぞれの良さが見つかった。その発見のおかげで仲良くなれ、心が強くなった。

見た人に感じてほしいこと

- 金沢には放置竹林の問題があること、問題解決のために何ができるかなどを考えてほしい。
- 「中学生でもこんなことができるんだ！私もやろう」と感じてほしい。そんな人が増えれば、解決につながる。
- 放置された竹は乱雑でも、姿を変えると人の心を動かす美しいものになる。竹アートを見て「自分も変わる」と勇気や元気をもらってほしい。
- 住みやすい、心地よい社会を作るためには一人一人が関係している。他人事ではなくいろいろな問題に触れ、考えてほしい。